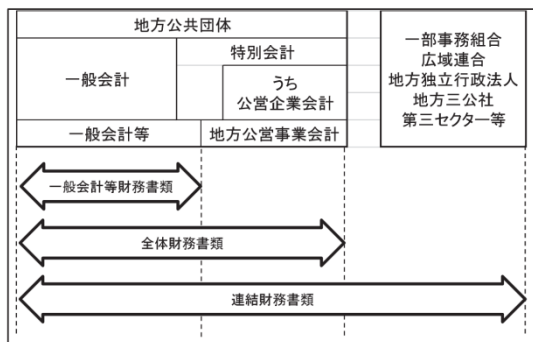


**今帰仁村 統一的な基準による財務書類4表（令和5年度決算）**

統一的な基準に基づく財務書類は、原則として平成27年度から平成29年度までの3年間ですべての地方公共団体に  
 おいて作成するように要請されています（平成27年1月23日付総務大臣通知「統一的な基準による地方公会計の整  
 備促進について」より）。

これを受け、今帰仁村では平成28年度決算より統一的な基準による財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）を作成しました。

## 対象とする会計範囲



会計区分	会計名称
一般会計等	一般会計
公営企業（法適用）	水道事業会計
公営事業（その他）	国民健康保険特別会計
	後期高齢者医療特別会計
一部事務組合・広域連合	北部広域市町村圏事務組合
	本部町今帰仁村清掃施設組合
	本部町今帰仁村消防組合
	沖縄県市町村総合事務組合
	沖縄県市町村自治会館管理組合
	沖縄県介護保険広域連合
	沖縄県後期高齢者医療広域連合

統一的な基準では、「連結財務書類」の作成についても求められています。その対象となる会計は、地方公共団体の一般会計のみならず、公営企業会計をはじめとする特別会計、一部事務組合・広域連合、地方三公社、第三セクター等を含めることとなっています。

今帰仁村における対象会計は、上図のとおりです。

## ①貸借対照表

		(単位：千円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
<b>固定資産</b>	25,525,864	<b>固定負債</b>	3,678,045
有形固定資産	24,083,900	地方債	3,641,800
事業用資産	11,218,120	長期未払金	0
インフラ資産	12,721,829	退職手当引当金	15,481
物品	143,951	損失補償等引当金	0
無形固定資産	4,382	その他	20,764
投資その他の資産	1,437,582	<b>流動負債</b>	499,711
		1年以内償還予定地方債	372,230
<b>流動資産</b>	1,818,445	未払金	0
現金預金	774,862	未払費用	0
未収金	30,278	前受金	0
短期貸付金	1,850	前受収益	0
基金	1,011,796	賞与等引当金	66,592
棚卸資産	0	預り金	50,683
その他	0	その他	10,205
徴収不能引当金	△ 342	負債合計	4,177,756
		<b>【純資産の部】</b>	
		固定資産等形成分	26,539,510
		剰余分(不足分)	△ 3,372,957
		純資産合計	23,166,553
資産合計	27,344,309	負債及び純資産合計	27,344,309

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

**資産：**学校や道路等の将来世代に引き継ぐ社会資本や、投資、基金等将来現金化することが可能な財産の総額。

**負債：**地方債の残高や退職手当引当金などの総額。将来世代が負担する金額。

**純資産：**公共施設整備の財源として受けた補助金や地方税等の総額。これまでの世代が負担してきた金額。

## 貸借対照表とは

貸借対照表は、会計年度末に保有している資産と、その資産を取得するために使ったお金の調達方法を表しています。現金の収支に注目する決算書では把握することができない財産や負債等、これまでの資産形成の結果を知ることができます。

## 今帰仁村の現状

これまでに今帰仁村では、27,344,309千円の資産を形成してきています。そのうち、純資産である23,166,553千円はこれまでの世代が負担してきた金額であり、負債である4,177,756千円は将来の世代が負担していくことになります。

**純資産比率 84.72%**

資産総額に占める純資産の割合です。現世代でどのくらい既に支払ったかを示す指標です。

(純資産比率＝純資産合計23,166,553千円÷資産総額  
27,344,309千円)

## ②行政コスト計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
経常費用	6,708,461
業務費用	4,102,546
人件費	1,224,172
物件費等	2,801,811
その他業務費用	76,562
移転費用	2,605,915
補助金等	1,480,708
社会保障給付	786,050
他会計への繰出金	334,707
その他	4,449
経常収益	366,793
使用料及び手数料	60,478
その他	306,315
純経常行政コスト	6,341,668
臨時損失	443,770
臨時利益	58,547
純行政コスト	6,726,891

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

### 行政コスト計算書とは

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入等）にかかわらない経常的な支出と、行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。

### 今帰仁村の現状

経常費用が経常収益を上回っていますが、これは行政コスト計算書の収入には行政サービスの直接的な収入のみを計上しているためです。

経常収益から経常費用を引いた純経常行政コストは、6,341,668千円になります。これに臨時損失と臨時利益の差額を加えた純行政コストは、6,726,891千円となり、この不足分は、村税、地方交付税や国・県補助金等の財源で賄っています。

### 住民一人当たり行政コスト 72万4千円

住民一人当たりどれくらいの行政コストがかかっているのかを表します。

(住民一人当たり行政コスト＝純行政コスト 6,726,891千円÷人口 9,286人

【令和6年1月1日時点の人口】)

**人件費：**職員給与や議員報酬、退職給付費用（当年度に退職手当引当金として繰入した額）等の総額。

**物件費等：**備品購入費や消耗品費、委託料、施設の維持補修に係る経費、減価償却費等の総額。

**その他の業務費用：**支払利息、外郭団体の営業外費用等の総額。

**移転費用：**住民への補助金、社会保障給付等の総額。

**経常収益：**使用料や手数料、財産貸付収入、預金利子、雑入等の総額。

**臨時損失：**災害復旧に要した費用、資産除売却によって発生した損失等の総額。

**臨時利益：**資産の売却によって得た利益等の総額。

## ③純資産変動計算書

(単位：千円)

科 目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	23,575,309	26,702,574	△ 3,127,265
純行政コスト	△ 6,726,891		△ 6,726,891
財源	6,093,104		6,093,104
税収等	4,056,224		4,056,224
国県等補助金	2,036,879		2,036,879
本年度差額	△ 633,787		△ 633,787
固定資産等の変動（内部変動）		△ 373,000	373,000
有形固定資産等の増加		1,294,513	△ 1,294,513
有形固定資産等の減少		△ 2,236,904	2,236,904
貸付金・基金等の増加		1,484,935	△ 1,484,935
貸付金・基金等の減少		△ 915,544	915,544
資産評価差額	5,503	5,503	
無償所管換等	205,623	205,623	
その他	13,905	△ 1,190	15,095
本年度純資産変動額	△ 408,756	△ 163,064	△ 245,692
本年度末純資産残高	23,166,553	26,539,510	△ 3,372,957

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

### 純資産変動計算書とは

貸借対照表の純資産の部について、増加要因と減少要因を計上し、純資産が1年間でどのように変動したのかを示しています。

### 今帰仁村の現状

純資産が昨年度よりも増加した場合は、負債の増加より資産の増加の方が多かったことを示しています。

純資産の増加要因には、行政サービスの対価として支払われる以外の収入（税収や国県からの補助金等）があり、減少要因には、行政コスト計算書で算出される純行政コストや有価証券の評価減額等があります。

**財源：**村税、地方交付税や分担金・負担金といった税収等の金額と国や県からの補助金の総額。

**固定資産等の変動：**公共施設等の有形固定資産及び貸付金・基金の増減内訳。

**資産評価差額：**有価証券等の評価差額。

**無償所管換等：**無償で譲渡または譲受した固定資産の評価額等の総額。

## ④資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	5,623,466
業務費用支出	3,017,551
移転費用支出	2,605,915
業務収入	6,326,529
税収等収入	4,043,926
国県等補助金収入	1,916,055
使用料及び手数料収入	60,441
その他の収入	306,108
臨時支出	10,956
臨時収入	5,139
業務活動収支	697,246
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	2,080,950
公共施設等整備費支出	619,978
基金積立金支出	1,459,172
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	1,800
その他の支出	0
投資活動収入	1,082,168
国県等補助金収入	115,686
基金取崩収入	888,087
貸付金元金回収収入	1,280
資産売却収入	77,116
その他の収入	0
投資活動収支	△ 998,782
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	369,273
地方債償還支出	358,276
その他の支出	10,997
財務活動収入	371,561
地方債発行収入	371,561
その他の収入	0
財務活動収支	2,288
本年度資金収支額	△ 299,248
前年度末資金残高	1,023,427
本年度末資金残高	724,179
前年度末歳計外現金残高	49,599
本年度歳計外現金増減額	1,085
本年度末歳計外現金残高	50,683
本年度末現金預金残高	774,862

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

### 資金収支計算書とは

貸借対照表の現金が1年間でどのように変化したのかを表しています。現金の使いみちによって、「業務活動収支」「投資活動収支」「財務活動収支」の3区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかを示しています。

### 今帰仁村の現状

資金収支計算書から算出したプライマリーバランスの額は、288,728千円となっています。令和5年度の行政活動は税収や国・県からの補助金等で賄えたことを示します。しかし、財政活動収支が2,288千円であり、地方債の発行額が償還額を上回ったことを示します。今後、計画的な償還等に努めます。

### 基礎的財政収支（プライマリーバランス） 288,728千円

具体的には、地方税や使用料、国・県からの補助金等による収入総額と、行政サービスの提供及び公共施設整備等にかかる支出総額を差し引いたものです。社会保障や公共事業をはじめ様々な行政サービスを提供するための経費（政策的経費）を税収等で賄えているかどうかを示しています。マイナスであればその年度の行政活動は税収や補助金等だけでは賄いきれなかったことを示します。

（基礎的財政収支＝業務活動収支 697,246千円＋投資活動収支 △ 998,782千円＋基金積立金支出 1,459,172千円－基金取崩収入 888,087千円＋支払利息支出 19,179千円）※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

**業務活動収支：**行政サービスを行う中で、毎年継続的に収入・支出される金額。

**投資活動収支：**学校、道路等の公共施設整備や投資、貸付金などの収入・支出等の金額。

**財務活動収支：**地方債等の借入・償還等の金額。

## 一般会計等

### 住民一人当たり資産額 294万5千円

住民一人当たりの資産額を示します。

（住民一人当たり資産額＝貸借対照表 資産総額 27,344,309千円÷人口 9,286人【令和6年1月1日時点の人口】）

### 住民一人当たり負債額 45万円

住民一人当たりの負債額を示します。

（住民一人当たり負債額＝貸借対照表 負債総額4,177,756千円÷人口 9,286人【令和6年1月1日時点の人口】）

### 債務償還可能年数 2.5年

地方債残高に対して、行政サービスを維持した状態で、全てを償還するのにかかると思われる年数です。

（債務償還可能年数＝（貸借対照表 地方債総額 4,014,030千円－貸借対照表 基金総額 2,293,137千円）÷資金収支計算書 業務活動収支 697,246千円）

### 老朽化比率 58.26%

償却資産（建物、工作物）の取得価額に対する減価償却累計額の割合を求めることで、老朽化の進行度合いを表します。老朽化比率が高いほど建て替えや改修などのコストがかかる時期が近いことを示します。

（老朽化比率＝減価償却累計額 28,926,281千円÷貸借対照表 償却資産 49,649,971千円）